

医療機器の寿命と耐用期間設定の意義  
～ 問われる医療機関における医療機器の安全管理 ～

医療機器の適正使用と適正保守のあり方

渡辺 敏 北里大学保健衛生専門学院、北里大学名誉教授

最近の医療機器は、従来のものに比べ性能のみならず、操作性、安全性、信頼性の面で優れていて、これらの機器がないと安全かつ質の高い医療を行えないといっても過言ではない。しかしながら、如何に優れた医療機器でも、その使用と保守が適正でないと医療の安全かつ効果的な遂行を妨害するだけでなく、ときには患者や医療関係者に重大な影響を与えることになる。

本パネルでは、平成 16 年度に実施された厚生労働科学研究「医療機関における医療機器の安全かつ適正な操作および保守方法に関する研究」の研究結果をもとに、医療機器の使用と保守に関する現状（操作法を学ぶ情報源の良否、操作のしにくさや間違いやすさ、操作に関係したトラブル、定期点検の実施状況など）を紹介するとともに、医療機器の適正な使用と保守を維持するために、医療機器の提供者、使用者そしてそれらを監督指導する行政が「今後、何を必要とするか」について述べたい。